

認定看護師教育基準カリキュラム

(特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関)

分野：乳がん看護

平成 26 年 5 月改正

平成 29 年 3 月改正（共通科目のみ）

平成 31 年 4 月改正（共通科目のみ）

令和 3 年 3 月改正（共通科目のみ）

(目的)

1. 乳がんの予防から終末期に至るまでの乳がん患者とその家族の QOL 向上に向けて、熟練した看護技術を用いて質の高い看護実践ができる能力を育成する。
2. 乳がんを有する患者の看護において、看護実践を通して他の看護職者に対して指導ができる能力を育成する。
3. 乳がんを有する患者の看護において、看護実践を通して他の看護職者に相談対応・支援ができる能力を育成する。

(期待される能力)

1. 乳がん看護に関する最新の知識を持ち、乳がん患者の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな状態を総合的に判断し、個別的なケアを計画、実施できる。
2. 乳がんの治療選択に必要な最新の知識を持ち、患者の意思決定の支援ができる。
3. 集学的治療を受ける患者・家族が治療継続に必要なセルフケア能力を高められるよう、適切な看護援助を行うことができる。
4. 乳がん患者の治療に伴うボディイメージの変容、心理・社会的な問題に対する看護援助ができる。
5. リンパ浮腫の予防、症状緩和に向けてのアセスメント及びセルフケア支援ができる。
6. 市民に対して乳がん予防や早期発見を含めた乳がん啓発教育ができる。
7. 乳がん患者・家族の人権を擁護するために適切な倫理的判断を行い、自己決定を尊重した看護を実践できる。
8. より質の高い乳がん医療を推進するため、多職種と連携・協働し、チームの一員として役割を果たすことができる。
9. 乳がん看護の実践を通して役割モデルを示し、看護職者への相談対応・指導を行うことができる。

教科目一覧

	教科目名	必修/選択	時間数		
共通科目	1. 医療安全学：医療倫理	必修	15		105 (+305)
	2. 医療安全学：医療安全管理	必修	15		
	3. 医療安全学：看護管理	必修	15		
	4. チーム医療論（特定行為実践）	必修	15		
	5. 相談（特定行為実践）	必修	15		
	6. 臨床薬理学：薬理作用	必修	15	小計	
	7. 指導	必修	15	105	
	8. 特定行為実践	選択	15		
	9. 臨床薬理学：薬物動態	選択	15		
	10. 臨床薬理学：薬物治療・管理	選択	30		
	11. 臨床病態生理学	選択	40		
	12. 臨床推論	選択	45		
	13. 臨床推論：医療面接	選択	15		
	14. フィジカルアセスメント：基礎	選択	30		
	15. フィジカルアセスメント：応用	選択	30		
	16. 疾病・臨床病態概論	選択	40		
	17. 疾病・臨床病態概論：状況別	選択	15		
	18. 医療情報論	選択	15	小計	
	19. 対人関係	選択	15	305	
専門基礎科目	1. 腫瘍学概論	必修	30		240
	2. がん看護学総論1	必修	30		
	3. がん看護学総論2	必修	30		
	4. 乳がん看護概論	必修	15	小計	
	5. がんの医療サービスと社会的資源	必修	15	120	
専門科目	1. 集学的治療を受ける乳がん患者の看護	必修	45		270
	2. 乳がんサバイバーとその家族への心理・社会的支援	必修	15		
	3. 乳がん患者の意思決定を支える看護技術	必修	15		
	4. 乳がん患者のボディイメージ変容への援助技術	必修	15	小計	
	5. 乳がん患者のリンパ浮腫の看護技術	必修	30	120	
学内演習・臨地実習	学内演習	必修	45		270
	臨地実習	必修	225	小計 270	
			総時間数	615 (+305)	

■共通科目

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
医療安全学： 医療倫理 (必修)	15	実践の場において、対象の人権擁護・知る権利・自律性（自己決定）を尊重した看護を提供するため、医療倫理についての理解を深め、実践活動にどのように反映できるか考察する。	1. 医療倫理の理論 2. 医療倫理の事例検討	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
医療安全学： 医療安全管理 (必修)	15	医療現場における安全管理をめぐる取り組みの経緯、医療事故発生のメカニズムについて理解する。また、実践の場において、看護職者及び他職種との連携を図り、医療事故を防止するための情報収集・分析・対策立案・評価・フィードバックを実践する能力を習得する。	1. 医療管理の理論 2. 医療管理の事例検討 3. 医療安全の法的側面 4. 医療安全の事例検討・実習	[授業形態] 講義、演習及び実習（医療安全）★ [評価方法] 筆記試験及び各種実習の観察評価
医療安全学： 看護管理 (必修)	15	わが国の保健医療制度の仕組みと動向を理解し、社会や地域住民のニーズに対応する医療サービスや看護のあり方を考察する。また、実践の場において質の高い看護サービスを効果的・効率的に提供するための戦略や自身の役割機能の展開などについて検討する。	1. ケアの質保証の理論 2. ケアの質保証の事例検討	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
チーム医療論 (特定行為実践) (必修)	15	質の高い医療・看護の効果的・効率的な提供に向けたチーム医療の推進について考察する。また、多職種協働の課題及び集団や組織の目標・課題を達成する上で必要なリーダーシップについて理解する。	1. チーム医療の理論と演習・実習 2. チーム医療の事例検討 3. 多職種協働の課題 ※特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割を含む	[授業形態] 講義、演習及び実習（チーム医療）★ [評価方法] 筆記試験及び各種実習の観察評価

★「医療安全学:医療安全管理」と「チーム医療論(特定行為実践)」の実習は、医療安全及びチーム医療の実習について、いずれか一方又は両方を行うものとする。

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
相談 (特定行為実践) (必修)	15	対象及び組織内外の看護職者や他職種などに対してコンサルテーションを行う際の知識や方法論について習得する。さらに、自らの役割と能力を超える看護が求められる場合には、自ら支援や指導を受けることの重要性について理解する。	1. コンサルテーションの方法	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
臨床薬理学： 薬理作用 (必修)	15	安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態を踏まえた薬物の作用機序と、主要薬物の薬理作用・副作用について理解する。	1. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
指導 (必修)	15	組織内外の看護職者に対して、実践を通して知識・技術を共有し、相手の能力を高めるための指導能力を習得する。	1. 生涯教育と生涯学習 2. 成人学習者への教育 3. 教材観（主題観）、対象者観、指導観 4. 学習指導案の作成・発表	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。
特定行為実践 (選択)	15	特定行為実践のための関係法規を理解する。特定行為の実践に向け、根拠に基づいた手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後に再評価するプロセスについて理解する。また、特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を理解する。	特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程（理論、演習）を学ぶ中で以下の内容を統合して学ぶ 1. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ ①特定行為関連法規 ②特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習 2. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ ①手順書の位置づけ ②手順書の作成演習 ③手順書の評価と改良	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
臨床薬理学： 薬物動態 (選択)	15	安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態について理解する。	1. 薬物動態の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
臨床薬理学： 薬物治療・管理 (選択)	30	安全確実な薬剤投与・管理を行うため、主要薬物の相互作用、主要薬物の安全管理・処方について理解する。	1. 主要薬物の相互作用の理論と演習 2. 主要薬物の安全管理と処方の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
臨床病態生理学 (選択)	40	臨床解剖学・臨床病理学・臨床生理学を学び、病態生理学的変化を判断するための知識を習得する。 演習を通し、病態生理学的変化を判断するための知識を深める。	臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学を学ぶ 1. 臨床解剖学 2. 臨床病理学 3. 臨床生理学	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
臨床推論 (選択)	45	症候学、臨床検査・画像検査、臨床疫学を学び、演習を通して臨床推論に必要な知識を習得する。	臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を学ぶ 1. 診療のプロセス 2. 臨床推論（症候学を含む）の理論と演習 3. 各種臨床検査の理論と演習 心電図/血液検査/尿検査/ 病理検査/微生物学検査/ 生理機能検査/その他の検査 4. 画像検査の理論と演習 放射線の影響/単純エックス線検査/ 超音波検査/CT・MRI/ その他の画像検査 5. 臨床疫学の理論と演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
臨床推論： 医療面接 (選択)	15	医療面接の理論と演習・実習を通して、症状の変化に対応し、身体所見・検査所見から病態を把握する臨床推論のプロセスを理解する。	1. 医療面接の理論と演習・実習	[授業形態] 講義、演習及び実習 (医療面接) [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価
フィジカル アセスメント： 基礎 (選択)	30	身体診察の基本手技を理解し、実践できる。	身体診察・診断学 (演習含む) を学ぶ 1. 身体診察基本手技の理論と演習・実習 2. 部位別身体診察手技と所見の理論と演習・実習 全身状態とバイタルサイン/ 頭頸部/胸部/腹部/ 四肢・脊柱/泌尿・生殖器/ 乳房・リンパ節/神経系	[授業形態] 講義、演習及び実習 (身体診察手技) [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価
フィジカル アセスメント： 応用 (選択)	30	小児・高齢者の特徴をとらえたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。 救急医療・在宅医療等の状況に応じたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。	1. 身体診察の年齢による変化 小児/高齢者 2. 状況に応じた身体診察 救急医療/在宅医療	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
疾病・臨床 病態概論 (選択)	40	主要疾患の病態と臨床診断・治療を理解する。	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 1. 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 循環器系/呼吸器系/消化器系/ 腎泌尿器系/内分泌・代謝系/ 免疫・膠原病系/血液・リンパ系/ 神経系/小児科/産婦人科/精神系/ 運動器系/感覚器系/感染症/悪性腫瘍/その他	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
疾病・臨床 病態概論： 状況別 (選択)	15	状況に応じた臨床診断・治療 (救急医療、在宅医療等) を理解する。	状況に応じた (あらゆる年齢・対象を含む) 臨床診断・治療を学ぶ 1. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習 2. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{※1} 評価方法 ^{※2}
医療情報論 (選択)	15	実践の場において、研究論文等を含む医療情報を効率よく収集・解析・伝達するための方法を習得する。また、情報倫理の観点から、医療情報の適切な取り扱いについて理解する。	1. 医療情報の定義 2. 文献検索によるエビデンスの確認 3. 医療情報の収集と活用 4. 情報倫理 5. 医療情報管理	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。
対人関係 (選択)	15	実践の場において、対象の理解に必要な基本的知識やスキルを習得する。	1. 対人関係論 2. コミュニケーションスキル 3. 対人関係演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。

※1 「演習」：講義で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、議論や発表を行う形式の授業をいうこと。
症例検討やペーパーシミュレーション等が含まれること。

「実習」：講義や演習で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、主に実技を中心に学ぶ形式の授業をいうこと。実習室（学生同士が患者役になるロールプレイや模型・シミュレーターを用いて行う場）や、医療現場（病棟、外来、在宅等）で行われる。ただし、単に現場にいるだけでは、実習として認められないこと。

※2 全ての共通科目（「指導」「医療情報論」「対人関係」を除く）において筆記試験を行うとともに、実習を行う科目については構造化された評価表を用いた観察評価を行うものとする。

(厚生労働省「特定行為に係る看護師の研修制度」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000077077.html>)

■専門基礎科目・専門科目・学内演習・臨地実習

教科目	教科目のねらい	単元	時間数
専門基礎科目	1. 腫瘍学概論	1) がん細胞の特徴 (1) 細胞の構造 (核・細胞質・細胞膜) (2) 細胞の発育過程 (分裂、増殖、アポトーシス、シグナル伝達など) (3) がん細胞の特徴 (発生のメカニズム、増殖、浸潤、転移) 2) がんの疫学 (1) 統計 (罹患率、死亡率) (2) がん登録システム 3) 乳がんの病態生理 4) 乳がんの疫学 5) 乳がんの病期分類 6) 乳がんの診断 (1) 画像診断 (2) 細胞・組織診断等 7) 乳がんの集学的治療 (1) 手術療法 (2) 化学療法 (3) 放射線療法 (4) 内分泌療法等 8) 治療と生殖に関する諸問題 9) 乳がんと遺伝に関する諸問題 10) 緩和医療	30
	2. がん看護学総論 1	1) がん患者を理解するために必要な概念 (1) 女性のライフサイクル (2) ストレスコーピング理論 (3) 危機理論 (4) セルフケア理論 (5) セルフエフィカシー (6) 家族看護理論 2) がん患者とリハビリテーション 3) 乳がんの予防から終末期に至るまでの倫理的問題と看護師の役割	30

※ゴシック体表記は、がん関連分野との合同講義が可能な単元

教 科 目		教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 基 礎 科 目	3. がん看護学総論2	<ol style="list-style-type: none"> 1) ヘルスプロモーションの概念を理解できる。 2) 成人期の学習ニーズに基づいて健康教育を計画・実施・評価する方法を理解できる。 3) がん看護実践に必要なフィジカルアセスメントの方法を理解できる。 4) 乳がん患者を支えるチームにおける看護の役割を理解できる。 5) 他職種の専門性を理解し、チームが効果的に機能するためにチームメンバーと協働する方法を理解できる。 6) 看護専門職としてメンバーシップを発揮するためのアサーティブなコミュニケーション方法を理解できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) がん患者とヘルスプロモーション 2) 健康教育 3) フィジカルアセスメント (呼吸機能、循環機能、脳/神経機能、栄養代謝状態、感覚・運動機能など) 4) がん医療チームにおける看護の役割 <ol style="list-style-type: none"> (1) 他職種の専門性の理解 (2) 医療チームにおけるコミュニケーション技術 (3) 医療チームにおける看護師の役割 	30
	4. 乳がん看護概論	<ol style="list-style-type: none"> 1) 乳がんを発病することに伴う心理的・社会的影響を理解できる。 2) 乳がん発症及び治療のセクシュアリティへの影響を理解できる。 3) 予防期・診断期・治療期・回復期・慢性期・再発期・終末期における乳がん患者・家族の特徴を理解し、各病期における看護の原則を理解できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 乳がんの発病がもたらす心理・社会的影響 2) 乳がん患者・家族のセクシュアリティ 3) 各病期における乳がん患者・家族の特徴と看護の原則 	15
	5. がんの医療サービスと社会的資源	<ol style="list-style-type: none"> 1) がん患者の療養に関連する施策、社会保障の制度を理解する。 2) がん患者の療養支援のための看護職の役割及び連携体制を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) がんの医療政策 <ol style="list-style-type: none"> (1) 診療報酬 (2) がん診療連携拠点病院 (3) 相談支援センター等 2) がん患者と家族が活用できる社会資源 <ol style="list-style-type: none"> (1) 高額療養費制度 (2) 在宅悪性腫瘍指導管理料 (3) 在宅酸素療法等 3) がんと医療経済 <ol style="list-style-type: none"> (1) 治療費 (2) 就労問題等 4) 退院支援 <ol style="list-style-type: none"> (1) 支援を要する患者のスクリーニング (2) 退院調整等 5) 訪問看護師の役割 6) 在宅医療を支える職種間の連携 	15

※ゴシック体表記は、がん関連分野との合同講義が可能な単元

	教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 科 目	1. 集学的治療を受ける乳がん患者の看護	1) 集学的治療を受ける患者の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな状態を総合的に判断できる。 2) 治療による副作用・後遺症の予防方法及び対処方法について理解し、患者への適切な情報提供ができる。 3) 治療侵襲からの回復や患者のセルフケアを促すための支援を実践できる。	1) 手術療法 (1) 周術期のケア (2) 手術後のリハビリテーション 2) 化学療法 (1) 化学療法開始時の患者への看護 (2) 治療中の症状モニタリングとケア (3) 治験と臨床試験を受ける患者への看護 3) 放射線療法 (1) 放射線療法開始時の患者への看護 (2) 治療中の症状モニタリングとケア 4) 内分泌療法 (1) 内分泌療法開始時の患者への看護 (2) 治療中の症状モニタリングとケア	45
	2. 乳がんサバイバーとその家族への心理・社会的支援	1) がんサバイバーシップの概念を理解できる。 2) 乳がんとともに生きる患者・家族を支援できる。 3) 代替・補完療法について理解し、代替・補完療法を望む患者・家族に対する看護の役割及び方法を理解できる。	1) 乳がんサバイバーシップの概念の理解 2) 乳がんサバイバーと家族の心理・社会的特徴 3) 乳がんサバイバーと家族への心理・社会的支援の方法 (1) カウンセリング (2) がんサポートグループ (3) 患者会、家族会 4) 代替・補完療法	15
	3. 乳がん患者の意思決定を支える看護技術	1) 乳がんの治療選択過程における患者の心理を理解できる。 2) 患者の意思決定プロセスを理解し、情報を整理した上で患者の意思決定の支援ができる。	1) 治療選択時の患者の意思決定・それを支える看護師の役割 2) 意思決定過程の理解 3) 意思決定に関連した患者・家族のアセスメント 4) 必要な情報の判断（情報源・量・質）と情報提供の方法	15
	4. 乳がん患者のボディイメージ変容への援助技術	1) ボディイメージ概念及び乳がん治療に伴うボディイメージの変容を理解し、肯定的なボディイメージの獲得のための支援ができる。 2) ボディイメージ変容がもたらすパートナーとの関係や家族間の問題を理解し、肯定的な関係を再構築するための支援ができる。	1) 治療に伴うボディイメージ変容の理解 2) 新しいセルフイメージの構築への支援 (1) 人工乳房の選択 (2) 乳房再建法 (3) 脱毛時のケア等 3) ボディイメージ変容による夫婦・家族間の問題の理解と対応	15
	5. 乳がん患者のリンパ浮腫の看護技術	1) 乳がん患者に生じるリンパ浮腫のメカニズム及び治療を理解し、リンパ浮腫のアセスメントができる。 2) 乳がん患者の身体的・心理的・社会的状態を総合的に判断し、リンパ浮腫予防のための指導ができる。 3) リンパ浮腫による患者の身体的・心理的・社会的問題を理解し、セルフケアを促進するための支援ができる。	1) リンパ浮腫発症のメカニズム 2) リンパ浮腫の予防とセルフケア支援 3) リンパ浮腫緩和のための治療とケア	30

	教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
学 内 演 習	学内演習	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自己の看護実践事例を振り返り、種々の理論の適用や研究成果の利用などを含め、多角的かつ広範囲な分析をし、新たな視点で事例を考察できる。 2) 乳がん看護認定看護師として、看護職者に教育的に関わるためのセッションを計画し実施することができる。 3) 市民に対して乳がん予防や早期発見を含めた乳がん啓発教育に関わるセッションを計画し、実施することができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 事例検討 2) 看護職集団への教育・指導に関する演習 3) 市民（個人及び集団）への乳がん啓発教育に関する演習 ・乳がん自己検診方法の指導 	45
臨 地 実 習	臨地実習	<ol style="list-style-type: none"> 1) 本課程で学んだ知識・技術を活用し、乳がん看護認定看護師に必要な実践・指導・相談の役割を展開する能力を習得する。 2) 乳がん看護認定看護師に求められる専門的看護技術（意思決定支援、ボディイメージ変容に対する支援、リンパ浮腫に対する支援、チーム医療の推進）を習得する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 乳がん患者と家族に対して、専門的知識に基づく詳細なアセスメントにより、場面の問題点を的確に把握し、計画・実施・評価を通して適切な援助を実践する。 ※乳房切除術患者1例、乳房温存療法患者1例、再発乳がん患者1例の3事例の看護を展開する。少なくとも2事例は、系統的に評価する。 2) 乳がん患者が、適切な情報のもとに意思決定し治療参加が可能となるように支援する。 3) 乳がん治療の経過に応じて、乳がん患者と家族への心理・社会的問題に対する相談対応・支援を実践する。 4) 乳がん患者に関わる看護職者、看護職集団に対して適切な指導を実践する。 5) 乳がん患者に関わる看護職者、看護職集団に対して適切なコンサルテーションを実践する。 6) 関連する他職種や、専門看護師・他分野の認定看護師、看護スタッフと連携・協働し、チームとして患者の問題を解決する。 7) 実習を通じ、認定看護師の役割を考察し、認定看護師としての自己の看護実践能力を発展させる。 	225